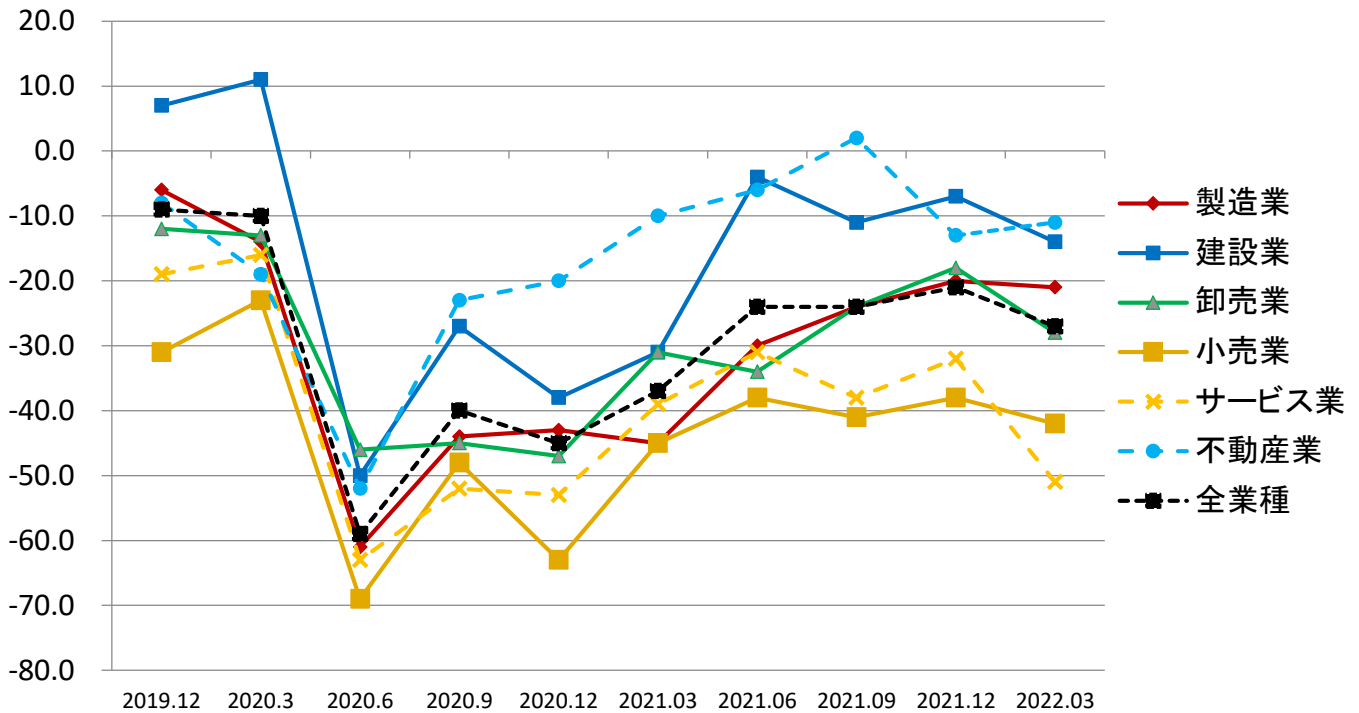


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。
出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.100

2. 業況判断DIの分析

2022年の3月期は、新型コロナウイルスによる感染拡大や、燃料費高騰などによる原料価格の上昇、ロシアによるウクライナ侵攻の影響で全ての業種において下降傾向となりました。直近では新型コロナウイルス感染がさらに拡大しており、引き続き厳しい状況が続いていくと考えられます。

不動産業においては、2ポイントの改善が見られましたが、製造業：-1ポイント、卸売業：-10ポイント、小売業：-4ポイント、サービス業：-19ポイント、建設業：-7ポイントと不動産業を除く他の5業種で下降傾向が見られました。サービス業については大幅な低下となり、-51ポイントと全業種の中でも特に厳しい状況にあります。

3. 中小企業診断士の一言

新型コロナウイルスの感染が拡大すると、消費者に以下のようなニーズが生じることがわかっています。①健康と安全安心②多様な働き方への対応③巣ごもり消費④デジタル取引、デジタルコミュニケーション⑤リアルな場所ならではの体験。①～⑤のニーズを捉えた取り組みを行いましょ。例えば、店内混雑緩和のキャッシュレス決済、店員さんのオンライン接客などです。ガイドラインにともなう対策で東京都中小企業振興公社の感染症対策サポート助成事業の活用を検討してみても良いでしょう。ぜひ商工会専門家にご相談ください。

4. 主要業界のトレンド

【全体】

福生市では2年連続プレミアム付き商品券が販売されます。通常の消費以上に商品券がきっかけとなるプラスの消費や上乘せの支出が期待できます。商品券を利用する顧客に対してセット販売や、おまけなどを準備し消費を促しましょう。

【製造業】

コロナ禍で通常の怪我や病気でも医療機関に受診ができない場合があります。これに備えて作業場での安全管理を徹底しましょう。そこで「ポケテナシ」を意識してみتهいかがでしょうか。「ポケテナシ」は、「ポケットに手を入れない」、「携帯を触らない」、「手すりを持つ」、「斜め横断しない」、「指差確認」の頭文字で製造現場の代表的なリスク回避行動です。長期休暇明けや厳しい暑さなど、現場の注意力が低下する時期とも重なります。ポスター掲示や朝礼で「ポケテナシ」の周知を行い、現場の安全を守りましょう。

【サービス業】

感染症の拡大により、顧客のSNSをチェックする時間は大きく伸びています。少しずつでもご自身でSNSを開始してみتهいかがでしょうか。来店のきっかけづくりの例として、美容院では、営業時間内に情報発信して、予約につながるが見込めます。SNSにチャレンジしてみて、紙媒体以外の情報発信に挑戦してみましょう。新たなお友達が増えるかもしれません。

【小売業】

商品の価格を改めて検討しましょう。原価に利益を加えて販売価格を設定している商品については、電力・水道料金の値上げや原材料の高騰で原価が上昇し、利益が大幅に減少している可能性があります。東京商工リサーチの調査では2022年1月以降にファーストフードや飲食店を中心に44%の企業が値上げを行ったとしています。値上げの際は①段階的に②いつから、いくらになるのか③堂々と伝える必要があります。顧客の理解を得られるように上手に伝えましょう。

【建設業】

バラエティショップなどには建設現場の生産性を上げるグッズが多くあります。例えば熱中症対策として「クーリングキャップ」などを作業時に装備することや、両手を使いながら電話や書類の確認ができる「ハンズフリーイヤホン」などさまざまな新商品があります。定期的に便利グッズを調査し、活用できそうなものを積極的に使用することで快適性や効率性を高めましょう。

5. 小さな企業の新たな取組みのためのヒント

政府の見解として、行動制限はせずに経済活動と感染症対策を同時に実施していくことが表明されています。この内容から今までの飲食店の時短要請などが発出される可能性は低いと考えられます。コロナ対応自体に対する補助金・助成金は数が少なくなり、アフターコロナ・ウィズコロナに対応する事業への補助金・助成金が多くなっています。非接触、効率化、自動化など労働人口が少なくなることとも考慮した補助金、助成金などが募集されています。ご自身の事業としてまずはどういうことができるのかなど漠然とした内容でも構いませんので、一度商工会に相談にお越しなつてはいかがでしょうか。